

むかわ町と北海道鷓川高等学校との連携事業 「むかわ合宿」を実施しました

本事業は、「高・大・地」三者の包括連携協定に基づく取り組みの一環として実施されており、鷓川高校で行われる課題探求型学習「むかわ学」に学生がファシリテーターとして参加し、高校生との交流や対話を通じ、提言発表会へのサポートを行うものです。
(内閣府「関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築事業」に採択されています。)
本事業を通じ、学生のファシリテーション能力や地域の現状理解度の向上、並びに課題解決能力や地域発展のためのアイデア提案力などの修得・向上を目指しています。

【第2回交流 むかわ合宿】

日時：令和4年8月16日(火)～18日(木)

場所：むかわ町イモッパ生活館、北海道鷓川高等学校、穂別キャンプ場

この度、第2回交流として「むかわ合宿」が実施され、本学からは10名の学生が参加しました。7月に実施された交流会に次いで2回目の対面となった今回は、高校生と大学生がさらに交流を深め、各自が取り組む「むかわ学」の成果を最大化することを目的として開催され、前回よりも打ち解けた雰囲気で行われました。

【1日目：8月16日(火)】活動テーマ「地域をフィールドにした探求学習に関するマインドセット」

むかわ町のイモッパ生活館に集合し、アイスブレイクを行ったあと活動を開始しました。

最初に、HIT(北海道総合研究調査会)の五十嵐理事長から、むかわ町の人口の現状分析や地域課題と対応策、2030年の社会の姿などについて講義があり、自分たちの「むかわ学」の取り組みは、どのような地域課題解決のためだったのか、原点に立ち返って考えたり、自分たちの取り組みは将来どうなっているのかを想像するグループワークを行いました。

また、他の自治体の取り組みや他校の探求学習の事例研究も行い、12月の提言発表会に向けたイメージを膨らませる時間となりました。

活動後は、夕食のカレー作りを通して交流を図りました。大学生がリーダーシップを取り、協力して調理したカレーは、関係スタッフにも振舞われ、皆で美味しくいただきました。



アイスブレイク



班の取り組みの未来について想像中



カレーを盛り付け(スタッフ分も含め約30名分)

〈法学専攻1年 小原さん〉 キャンプ班

たくさん話してくれて、いろいろな案が出ました。高校生は大学生が持っていない発想をもっていたり、違う角度で考えていることがわかりました。全く考えていなかった方向から出てきた案が面白いもので、そこに大学生の知恵を足すことでだんだん現実味のある案になってきました。

〈地域創生専攻3年 黒宮さん〉 クレープ班

初めて対面で参加しました。オンラインで参加した中間発表のときと比べ、さらに高校生は自分たちで考えてやっているし、自分たちの考えを大学生にしっかり伝えてくれています。大学生に対して、具体的にこうしてほしいともわかりやすく言ってくれるので、サポートしやすいです。

【2日目：8月17日(水)】活動テーマ「地域へ飛び出して各チームの探究活動を深める」

鷓川高校に集合し、グループ毎に簡単な打合せを行ったあと、事前に整理していた「この合宿で取り組みたいこと」に沿って、フィールドワークを行いました。

クレープ班は、材料買い出しのほか、むかわ町の特産品等を取り扱う「ぼぼんた市場」を訪問し、クレープに使用できる食材がないかを調査したり、お店の方にクレープに関する聞き込みを行いました。高校に戻ってからは、「試作→試食→反省」を繰り返し、高校生と大学生が協力して知恵を出し合いながら、思い描くクレープの形に近づけていました。失敗をすることで新たな発見もあり、完成イメージへの方向性が見えてきたようでした。

コスプレ班は、町役場を訪問し、イベント担当者や打合せを行いました。イベント内容の説明は高校生を中心に、大学生は要点のまとめ等のサポートに回っており、お互いの役割をうまく分担して進めているようでした。午後からは高校に戻り、イベントの主会場「法城寺」の住職である舩田さんと共に、当日までの具体的な準備等について打合せました。大学生はこれまでの活動経験を踏まえ、自らの視点

ぼぼんた市場訪問



でイベント時に必要な注意点等の指摘や提案を行っていました。

スマート農業班は、小坂農園さんを訪問し、農業を始めたきっかけやスマート農業の現状、未来の農業や獣害対策等について話を伺い、意見交換を行いました。実際に農業に携わる方の話は興味深く、事前に調べていた情報とは異なる、新たな情報を得ることができたようでした。午後は町役場にてスマート農業研究会に参加し、町の獣害の現状や課題等について話を伺いました。質問を投げかけたり、「こんな対策をしたらどうか」と獣害対策について提案をするなど、高校生も大学生も積極的な姿勢が印象的でした。(キャンプ班は、高校生の参加がなかったため、フィールドワーク未実施。)

合宿も2日目となると、高校生と大学生のコミュニケーションもスムーズ取れるようになり、互いに協力し合って研究を進める姿勢が多く見られました。夕方からは穂別キャンプ場へ移動し、BBQや花火を楽しみ、最終日に向けてより交流を深める時間を過ごしました。



トラクター乗車体験



クレープ班:試作中



コスプレ班:イベント担当者や打合せ



穂別キャンプ場でBBQ交流会

【3日目：8月18日(木)】活動テーマ：「提言発表会までに取り組む内容を計画する」

鷓川高校に集合し、前日のフィールドワークの振り返りや3日間の感想を共有したあと、提言発表会に向けての大まかなストーリーを作成するグループワークを行いました。取り組みのきっかけ・動機となったことや実際に調査してみたこと等を整理したり、12月の提言発表会までのスケジュールを組み立てて各グループから発表しました。

午後は、株式会社Prima Pinguinoの藤岡代表をお招きし、今後実現するであろうテクノロジーや問題・課題解決策としてのテクノロジーについて理解を深めることを目的とした「テクノロジーワークショップー地域で起こすイノベーションー」が行われました。最後に全体で今後の活動について確認し、3日間の合宿が終了しました。



提言発表会までのストーリー作成



藤岡先生の講義



自分の困りごとと使えそうなテクノロジーを結びつけ

〈経営学専攻2年 小金澤さん〉 スマート農業班

3日間を通して、充実した時間にする事ができたと思います。高校生から聞いていた話や機械を実際に聞いて見る事ができたので、イメージがしやすくなりました。舞台が地元であるとはいえ、知らないことが多くあったので、勉強になりました。今後、高校生と意見を出し合いながら勉強し、良い提言発表ができるように協力したいと思います。

〈経済学専攻3年 川村さん〉 コスプレ班

地方ならではのイベント開催による問題点、利点などに気づくことができ、高校生とのグループワークでも議論が途切れることなく双方が積極的に参加できていてとても有意義な時間を過ごせたと思います。また、発表の前の活動として、それぞれのグループの活動結果(コスプレイベントの開催後の結果など)を話し合える場があると提言発表会の内容も固まり、話がしやすくなるのかなと思いました。

〈経済学専攻4年 多田さん〉 スマート農業班

農業に対する見方が大きく変わりました。役場や農場の方とお話して、スマート農業がどのように求められているかが改めて理解できました。また、むかわ高校の生徒さんの農業に対する熱意や興味が伝わりました。我々札幌の大学生には無いような経験や気付きがあり、参考にさせて頂きたいと感じました。

〈経済学専攻4年 道端さん〉 クレープ班

クレープの試作や買い出しなどほとんどの工程で新たな問題を見つけることができ、この先の完成に向けて、必要なことが少しずつ明らかになりました。パーフェクチャー楽しかったです。

高校生からも感想をいただきました!

「いつも限られたメンバーで話し合っていて発展性がなかった。今回は自分たちで聞けないようなことを大学生が指摘してくれて大人の見方を知ることができた。」

「自分たちでは気づかないような観点を提供してくれて、一緒に活動できてよかった。」

「大学生と話せてとても良かった。別の視点から指摘してもらい今まで埋まっていなかった穴を埋めてもらった気がした。」

